

会議録

会議の名称	令和2年度第1回 西東京市緑化審議会
開催日時	令和2年6月26日(金) 14時00分から15時30分まで
開催場所	エコプラザ西東京 多目的スペース ※WEB会議システムにより、エコプラザ西東京とオンライン参加の委員をつなぎ、会議を開催した。
出席者	委員:伊藤会長、飯田委員(オンライン参加)、村田委員(欠席)、椎名委員、中尾委員(欠席)、亀田委員、佐藤委員(オンライン参加)、中村委員(欠席)、池田委員、高橋委員、大矢委員、横山委員(欠席)、加納委員、梅原委員、田巻委員 事務局:みどり環境部長 青柳、みどり公園課長 渡邊、みどり公園係長 安達、みどり公園係主任 高島 支援委託業者:ランドブレイン(株)宮脇、平田
議 題	1 令和元年度第3回緑化審議会会議録(案)について 2 令和元年度緑化審議会小委員会の活動について 3 活動レポート(ヤシキリン通信)について 4 令和2年度緑化審議会スケジュールについて 5 その他
会議資料の名称	資料1 令和元年度第3回緑化審議会会議録(案) 資料2 小委員会活動報告(各調査のまとめ) 資料3 活動レポート創刊号 資料4 令和2年度緑化審議会スケジュール(案)
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p><u>開会</u> (事務局) 新型コロナウイルスへの対策のため、オンライン参加と会場参加の二つの参加方法を設け、審議会を開催する。</p> <p>(会長) 第1回西東京市緑化審議会を開催する。 ～事務局より資料の説明～</p> <p><u>1 令和元年度第3回緑化審議会会議録(案)について</u> ～事務局より資料1の説明～</p> <p>(会長) 委員の皆様には、議事録を事前にご確認いただいているかと思う。特に問題が無いようであれば、そのまま承認とする。</p>	

(委員)

異議なし。

2 令和元年度緑化審議会小委員会の活動について

～事務局より資料2の説明～

(会長)

小委員会活動報告(各調査のまとめ)について、小委員会の各委員に補足説明をしていただきたい。

①建築について

(会長)

母屋、離れ、蔵の説明と、大学院生とともに作成した建物の活用イメージを掲載している。母屋や離れは比較的新しい建物であり、文化財としての価値はないかもしれないが、屋敷があつてこそその屋敷林であるため、建物をどのように評価できるのか検討していく必要がある。母屋と離れについては、西側に座敷があり東側に土間があるという点で武蔵野の民家の特徴を反映している。また、西側と北側に防風林があるのも特徴である。このような土地利用と住まいのプランニングは、武蔵野の民家の特徴を踏襲しており、さらに掘り下げていきたいと考えている。

②植生について

(委員)

小委員会活動報告の作成段階では植生調査が終わっていなかったため、一般的な武蔵野台地の屋敷林について概説した。荒屋敷や下保谷については、白子川流域を遡って人々が新田開発を始めたということもあり、他の武蔵野台地の屋敷林とは異なるところもある。調査を行い、結果を集計しているところである。調査の分析結果については、改めて報告させていただきたい。今回の調査結果は微気候調査とも関連するため、連携して進めていきたい。

(会長)

委員には、ボランティアの方々に計測や記録を取る方法についてもご指導いただいた。また、次は白子川流域がテーマになってくるだろうという示唆もいただいた。

(委員)

調査にあたっては、500本以上の樹木調査を行ったが、ボランティアの方々延べ100名にご協力いただいたことについても大変感謝している。

③雨水浸透と微気候について

(委員)

グリーンインフラとしての屋敷林について、微気候と雨水の貯留・浸透に関する調査結果をまとめている。屋敷林は駐車場に比べて最大5.14℃気温が低く、約1haという面積に対して高い暑熱緩和効果があるということ、大型台風が上陸した際にも90%以上の雨水を貯留・浸透させていることが分かった。また、農家の方に意識調査を行い、屋敷林の暑熱環境の緩和効

果については価値が認識されているものの、洪水緩和効果についてはあまり価値が認識されていないことが分かった。

④人材育成について

(委員)

高橋家屋敷林保存会の活動や屋敷林の価値についてまとめた。練馬区の屋敷林では、保全活動や環境教育に関する人材育成を行っている。白子川でつながっているということもあり、文化圏として共通点があると考えられるため、新たに分かったことについて共有していきたい。

～都合により委員退席～

⑤歴史文化について

(委員)

歴史・文化の観点から、市民の方々との活動と生活の場としての屋敷林についてまとめた。練馬は文化圏を同じくしているという話もあったが、白子川全域、武蔵野といった広がりの中に屋敷林を位置付けていきたい。植生や微気候等についても、そのような広がりの中に位置づけていくことで、屋敷林の価値を明らかにできるのではないかと考えている。また、活動の場としても屋敷林を活用していきたいと考えている。

(会長)

下保谷四丁目特別緑地保全地区に関する取組だが、屋敷林の敷地内で完結するのではなく、地域固有の文化や歴史、環境等を評価し、それらを学び実感していくことを通して、住みたいまち、住みよいまちという目標の達成につながっていくのではないかと考えている。さまざまな活動をどのように屋敷林に関連付けていくかが今後の課題である。

(会長)

次に、今年度の取組の方針について、各委員にご説明いただきたい。

建築については、武蔵野の民家としてどのように評価するか検討していきたい。小金井市の江戸東京たても園や東久留米市の柳窪の旧集落、あるいは武蔵野以外の民家の事例を集めながら、武蔵野の民家の特徴やそれらの共通性について明らかにしていきたい。市民の方と活動しながら学ぶ機会を作っていきたいが、コロナ禍の状況を踏まえ、市民参加のイベントがどこまでできるのか様子を見ながら進めていく。

(委員)

植生については、計測を行い、図化して解析を行う。高橋家屋敷林の経過や植生としてどのような状態か、林床(林の下部にある草本類等)の動きや可能性について明らかにしたい。今後どのようにしていけばよいか検討するための材料としたい。

(委員)

雨水浸透と微気候については、昨年調査のまとめが中心となる。定期的なデータ回収が難しいということもあり、温湿度計や流出量調査器具は撤収するつもりである。

(委員)

歴史文化については、広い視野で調査を進めていきたい。市民の方々と白子川について研究を行っており、白子川流域のなかに屋敷林を位置付けていきたい。市民参加のイベントがどうなるか分からないが、みなさんに分かりやすくまとめて提示していきたい。

(会長)

学びや体験、調査といった活動に市民の方々に関わっていただくのが今年度の目標であったが、コロナ禍の現状を踏まえると、それらに向けた学びの教材(コンテンツ)を作るという期間になるだろう。

3 活動レポート(ヤシキリン通信)について

(会長)

昨年度末に「ヤシキリン通信」の創刊号を作成した。中面の特集については、小委員会の紹介を書かせていただいたが、審議会の委員の方々についても、普段の活動や審議会を通して感じたことについて紹介させていただきたい。

～資料5について事務局より説明～

(委員)

「ヤシキリン通信」はどのくらいのペースで発行する予定か。内容は、毎号テーマを決めて特集するというイメージで良いか。

(会長)

発行ペースを含め、どのようなかたちで発信していくか検討していく。屋敷林に定点カメラを設置し、リアルタイムで敷地内の様子を配信しても面白いのではないか。屋敷林をみんなが使える場所とするだけでなく、地域固有の歴史文化等について学んだり交流したりできる場所にすることが活動の目的だと考えている。「ヤシキリン通信」や「小委員会活動報告」の内容を、WEB上で情報発信していくのもよいと考えている。

(支援委託業者)

これまでの活動は、桜や紅葉の鑑賞会、活動レポートや小委員会活動報告の作成が中心であった。コロナ禍の状況を踏まえ、現地に行かなくてもできる体験やインターネットを通して屋敷林がどのような場所か、どのような活動が行われているか発信できるとよいのではないかと考えている。

(委員)

そのような活動の担い手は誰になるのか。

(支援委託業者)

委託事業者としてもできることは支援する。取組の主体も含め検討していく必要がある。

(会長)

これからの活動や情報発信について委員の方々からご意見を伺いたい。

(委員)

WEBだけの情報提供というイメージがあるかもしれないが、オンサイトとオフサイト(オンライン)の両方があることにより、より幅広い層の参加が可能になる。自身も飛騨の博物館のオンラインツアーに参加したが、平時でもなかなか行けないような場所に行くことができ、素晴らしい資料があることを知った。参加者のアンケートでも、現地で見たいという意見が出ていた。WEBがあるから行かなくていいとはならない。現在の活動とともに、チャレンジとして取り組んでみる価値はあると思う。

(会長)

大学でもVR(仮想現実)キャンパスという取組を行っているが、このようなコンテンツの作成については外部に委託する必要があるか。

(支援委託業者)

360度カメラで撮影を行い、それを編集することで、バーチャル空間を作成するという方法等があるが、専門的な技術が必要であるため、外部に委託したほうがよいのではないか。低予算で作成を請け負っている会社もある。

(委員)

委員の小委員会活動報告に話が戻るが、一般的な屋敷林の話ではなく、下保谷四丁目特別緑地保全地区に話を絞ったほうがよいのではないか。

(会長)

他の調査についても、下保谷や武蔵野等の様々なスケールで話をしている。報告の右上にあるロゴでイメージの統一を図れるようにしていきたい。

(委員)

これまでに市民に向けた広報は行ってきたのか。

(事務局)

本来は、昨年度末に予定していたフォーラムにて市民に向けて広報・公開する予定であった。コロナ禍のなかで、オンラインの方法を含め検討していく必要があると考えている。また、今後のイベント等の機会を捉え、活動報告パネルも有効活用していきたい。

(委員)

一過性のイベントで使うだけではもったいない内容だと思うので、長く活用できるよう日付を入れて発行してほしい。

(委員)

ホームページを作成するという手法はどうなのか。自身が活動する団体では、ホームページをきっかけに小学校から授業の依頼が来た。

(支援委託業者)

ホームページがありとあらゆる情報を集約して発信できるため非常に有意義だが、作成や管理に専門的な知識が必要になるため、取組のハードルが高い。そのような意味では、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)等を活用する方が誰にでも簡単に発信ができるという利点がある。イベントの発信等においては、西東京市のホームページを活用している。

4 令和2年度緑化審議会スケジュールについて

～事務局より資料4の説明～

(会長)

8月に任期が切り替わるため、そこから次年度に向けた保全活用計画の検討が始まることになるかと思う。小委員会の委員については、先ほどお話いただいた通り、調査研究を進めていただきたい。適宜、小委員会を開き、情報を共有していきたい。

5 その他

～事務局より今後の予定について説明～

閉会

(会長)

以上で、第1回西東京市緑化審議会を閉会する。

以上